

登録コード	UAC27500	開講年度	2026				
授業題目	日本文学研究Ⅲ					担当教員	速水 香織
						副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	水曜・2時限		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					⇔	【授業の達成目標】
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。					⇔	韻文の歴史的展開について学び、作品内容に関する議論を重ねることにより、高度に専門的な知見に基づく自身の見解を的確に表明することができるようになる。
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。					⇔	韻文の歴史的展開について学び、作品内容に関する議論を重ねることにより、高度に専門的な知見に基づく自身の見解を的確に表明することができるようになる。
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。					⇔	韻文の歴史的展開について学び、作品内容に関する議論を重ねることにより、高度に専門的な知見に基づく自身の見解を的確に表明することができるようになる。
(2)授業の概要	勅撰集をはじめとする和歌集及び歌論・連歌論書、江戸時代および近代以降成立の俳句集を幅広く取り上げる。まず講義により基本的な情報を共有したのち、各時代の作品解釈を行う。解釈のための調査・注釈作業にあたっては、ディスカッションによって精度を高めるとともに、全体の言語運用能力、ひいては問題解決能力の向上を図る。 なお、近現代における俳文芸の文化史的広がりを実作の有り方については、ゲストスピーカーによる講義を実施した上で、より実践的な知識に基づいた討議を行う。また、到達度をはかるための定期試験を実施する。						
(3)授業計画	第1回：ガイダンス：日本文学における韻文の発生と展開 第2回：和歌・連歌史の展開①：『万葉集』から『古今和歌集』、以降の勅撰和歌集 第3回：和歌・連歌史の展開②：平安時代における「百首歌」の隆盛と「歌題」の発展 第4回：和歌・連歌史の展開③：連歌の発生と「俳諧之連歌」への変遷 第5回：季語の源流としての「歌題」：歌題のもつイメージと実作例の調査 第6回：ディスカッションⅠ：調査結果のプレゼンテーションと討議 第7回：ディスカッションⅡ：Ⅰを踏まえての再調査結果のプレゼンテーションと講評 第8回：江戸時代の俳諧史①：「俳諧之連歌」の発生と貞門・談林から蕉風俳諧への展開 第9回：ディスカッションⅢ：芭蕉連句への注釈作業とプレゼンテーション 第10回：ディスカッションⅣ：Ⅲを踏まえての再調査結果と解釈についてのプレゼンテーション 第11回：江戸時代の俳諧史②：談林から派生した前句附俳諧―「雑俳」から「川柳」への発展 第12回：近現代における俳句文化①：近代ヨーロッパにおける俳文芸受容（ゲストスピーカー） 第13回：近現代における俳句文化②：季語の普遍性と地域性―地域に根差す文芸としての俳文芸 第14回：近現代における俳句文化③：現代俳句文化の状況と実作（ゲストスピーカー） 第15回：ディスカッションⅤ：俳文芸の広がり展望について 定期試験 実施する。						
(4)成績評価の方法	和歌・連歌を基盤とした俳文芸の展開と特色についての理解や問題解決能力の程度を判断するため、講義形式の回にはコメントシート、ディスカッションの回にはミニレポートの提出を課す（80点）。これと定期試験（20点）の合計100点満点によって成績評価する。 合計100点満点のうち、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。59点以下の場合は単位認定しない。						
(5)成績評価の基準	【卓越している（秀）】日本文学研究の理論的な知識をもとに適切に作品を理解し、導き出した自己の見解を明確に表現する力が極めて高い水準にある。 【かなり上にある（優）】日本文学研究の理論的な知識をもとに適切に作品を理解し、導き出した自己の見解を明確に表現する力が非常に高い水準にある。 【やや上にある（良）】日本文学研究の理論的な知識をもとに適切に作品を理解し、導き出した自己の見解を明確に表現する力が高い水準にある。 【その水準にある（可）】日本文学研究の理論的な知識をもとに適切に作品を理解し、導き出した自己の見解を明確に表現する力が一定水準にある。						
(6)事前事後学習の内容	プレゼンテーションのための十分な知識の修得と準備とが事前学習となる。またディスカッションの内容や指摘された点について検討し、より充実したプレゼンテーションへと発展させることを事後学習とする。						
(7)履修上の注意	プレゼンテーションのための準備には、十分な時間と緻密な作業とが必要となる。また資料を読むにあたってはくずし字解読の知識と、精確な読解能力を要するので、そのことをふまえて受講すること。						
(8)質問、相談への対応	メール連絡・担当教員のオフィアワーにおいて対応する。面談を希望する際は、事前に必ず連絡を取る。担当教員のオフィアワーは、以下のとおり。 木曜日昼休み（12:10-13:00）、khayami@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。						
【参考書】	新編 日本古典文学全集87「歌論集」、88「連歌論集 能楽論集 俳論集」（小学館2001年） 『近世俳諧史の基層』（鈴木勝忠著、名古屋大学出版会1992年）						

【参考書】	『俳諧の近世史』（加藤定彦著，若草書房1998年） 『ゆたかなる季語 こまやかな日本』（宮坂静生著，岩波書店2008年）
-------	---